

聖書 イザヤ書55章1〜11節、ローマ書15章4〜13節

イザヤ55章10〜11節「雨も雪も、ひとたび天から降れば、空しく天に戻ることはない。それは大地を潤し、芽を出させ、生い茂らせ、種を蒔く人に種を与え、食べる人には糧を与える。

そのように、わたしの口から出るわたしの言葉も、空しくは、わたしのもとには戻らない。それはわたしの望むことを成し遂げ、わたしが与えた使命を必ず果たす」と語っています。

神が語った言葉は必ず実現するという内容です。非常に力強い預言者の言葉であり、頼もしい約束の言葉です。神自ら約束して下さるのです。この言葉を語りかける神に信頼するあなたの期待は、絶対に空振りに終わることはないと言っています。つまり、神は語った言葉を必ず現実にするというのです。神が解放すると言えば解放が実現し、神が赦すと言えば、罪が精算され赦しが起こるのです。ここに本当の希望があるのです。だから勇気を出して生きてゆきなさいとイザヤ書は言っているのです。神の言葉は人を生かす原動力だからです。人生という字を思い浮かべてみてください。私たちが自分の人生を考えると、多くの人は無意識のうちに自分で自己決定的に人生を選択しながら生きてきた結果の集大成が人生であると考えてしまっていないませんか。人生という字は『人が生きる』という字であると普段私たちは無意識のうちに考えていますが、人生という字を「人を生かす」と解釈するならば、他ならぬ神が人を生かしているのです。ですから、イザヤ書は言うのです。神の言葉が人を生かしているのです。私たちの人生は成り立っているのだと。今日は、神の言葉が人を生かしているのです。私たちの人生が成り立っているということを確認していただければ、それで十分です。

10節の言葉を読んでみましたが、雨と雪はひとたび天から降れば、空しく天に戻ることはない。それは大地を潤し、植物の芽を出させ、生い茂げらせ、種蒔く人には食物の成長を促し、その結果として人間に農作物としての糧を与えます。この自然現象は私たちが毎日のように見て体験していることです。雨は降り過ぎると災害になりますが、適度な雨は作物の生育に欠かせない天の恵みです。必ず良い実りをもたらします。そのように、神の言葉も、空しく天に帰ることはないのだと言っているのです。これが、捕囚の憂き目に遭っていたイスラエルの民に語りかけた第二イザヤと呼ばれる無名の預言者の言葉なのです。

この言葉を聴いた捕囚の民が待ち望んでいたことは、具体的なことでした。イスラエル民族が外国の支配

から脱し、先祖伝来の土地に帰ることです。捕囚から数十年間、遂に待ち望んでいた解放の到来を告げる預言者による神の言葉です。それがイザヤ書40章から55章にかけて語られた第二イザヤという預言者の言葉なのです。神は、この無名の預言者の口を通して語り始められたのでした。

40章の冒頭では「慰めよ、わたしの民を慰めよと、あなたたちの神は言われる。エルサレムの心に語りかけ、彼女に呼びかけよ、苦役の時（＝捕囚）は今や満ち、彼女の咎は贖われた、と。罪のすべてに倍する報いを、主の御手から受けた、と」（40章1～2節）。捕囚の縄目からやつと自由になるという解放の預言です。捕囚という苦役の時が満ちて、やつと故郷に帰れるのだと、神は語っていると預言者は語るのです。それまで、どの預言者も、そのような解放の時が来たとは語ってはいなかったのです。

今日、こういう神の言葉を聴く私たちもまた、日々の生活の中で、行き詰まり、生きる希望を見失っているところがあります。そういう私たちもまた、こういう神の言葉に希望を抱き、それに依り頼んで生きて行きたいと思います。しかし、現代人は言うかもしれません。「預言者の時代、あるいはイエスや使徒たちが生きていた時代には、神は直接語りかけていたかもしれないが、いまは沈黙しておられる。どこで神の言葉を聴けばいいのだ」と。確かに、現代は神の啓示が活火山の溶岩のように吹き出ている時代ではありません。しかし、私たちには聖書があります。聖書を読むことを通して神の言葉が一人ひとりに臨んでいるのです。直接に神の言葉を耳で聞けないにしても、聖書を通して聞き直すことができます。本日読んだローマ書15章4節でも「かつて書かれた事柄は、すべてわたしたちを教え導くためのものです。それで、わたしたちは、聖書から忍耐と慰めを学んで希望を持ち続けることができます」と言っています。これは、聖書の言葉は今も信じる者の心の中に語りかけているということです。このことは、主イエスがルカ福音書4章21節で、ナザレの会堂で説教をしたときに、聖書を解き明かして、「この聖書の言葉は、今日、あなたがたが耳にしたとき、実現した」と言っておられる通りです。最後に、神が人を生かすためにみ言葉を与えて、それによって私たち一人ひとりの人生が神に生かされて成り立っているのですが、この神の言葉によって生かされている者は、自らも他者を生かす言葉を語らなければならないのです。なぜなら、神に生かされた人生を歩んでいる者は、他者を生かす存在になることで、より神の言葉に生かされた人生を歩むことができるからです。